

先生の教育

2005.10.1
05年度第1号
(49号)

京都市教組



特集

先生が元気の出る話

目次

特集 先生が元気の出る話

京都市教組六月教研記念講演
先生が元気の出る話

習熟度別授業より三〇人学級を

教育評論家／坂本光男…… 2

きゆうしよくしつからこんにちは

「おいしいね」を発信して

仁和小学校分会／浅田光代…… 9

◆シリーズ

街角の史跡⑮

向島小学校分会／早川幸生…… 10

◆シリーズ

教師として生きる③

みんなで力を合わせる

常磐野小学校分会／岩谷たけ子…… 12

平和教育の取り組み

沖縄修学旅行の実践

高雄中学校分会／小釜一宏…… 14

◆職場・分会から

久世西小学校分会／赤阪咲恵…… 16

先生が元気の出る話

●京都市教組六月教研記念講演

先生が元気の出る話

習熟度別授業より三〇人学級を

教育評論家 坂本光男

原則・見通しと仲間・集団の力

みなさんよろしくおねがいます。楽しくやりましょう。市教組に招かれるのは久しぶりです。みなさんに元気になってもらおうと思ってきました。

私が一貫して言ってきたことですが、元気を出すには二つあります。一つは、原則と見通しをしつかり学習して身につけること、もう一つは人間どうしが仲間として集団で学びあったり、力をつける、これ以外にないんです。

ある県の先生が「文部省や文部科学省は失敗やまちがいばかりだから、うちの県は文科省の言うとおりにしません」と言いました。学力調査やっつて、子どもの豊かさがなくなったからやめたのに、また復活です。道徳教育は破綻してしまっただ、それなのにまた「心のノート」を出してきました。最近では十五歳の少年の事件が起きましたが、学

校が楽しくないからうちへ帰ってストレスを爆発させる、そのストレスを受けとめてくれる家庭がないからトラブルが起きてしまう。決して親が悪いとか、本人が悪いと言いきれないのです。今、全国の学校は学力調査、学力向上で苦しんでいる。それで学校が楽しくなくなっている。いちばん象徴的なのは、去年の六月長崎の佐世保で起きた同級生殺害事件です。長崎にも講演に行きました。びっくりしたのは、長崎県全体がやっていることが、学力向上と心のノートだということです。心のなかみを見ようとしなければ、ああいう事件がまた起きます。中学校もたいへんです。大きな荒れが広がり、先生方が苦勞しています。「学力向上と心のノートをやれば、不吉の予感がする」と全国に言ってます。

「学力向上」は長続きしないでしょう。「心のノート」も表面だけで言っているのです。本当の意味で心を癒すとか、心がなごむような、そういう

政策や学校を作ろうとしていません。お気づきでしょうが、会社と同じようにしているのです。教育の結果というのは目に見えないのです。それを数値結果、数値目標を出せと言う。ある県では、今年一年間で不登校生徒を何名減らすか目標を出しなさいと言われ、先生方が怒っています。不登校は子どもなりの深い苦悩があつておきているのだから、時間をかけて指導しなければいけません。目標なんてたつわけがない。また、ていねいに指導されているある障害児学級の先生は、「この子に一年間約六百万円かかる、あなたの給料が七百万円、合計千三百万円かかるのだから、それなりの結果を出してくれ」と言われたそうです。障害児教育をカネで計算する、とんでもないことが起こっています。学校は学校教育の場で、結果の見えないことをやるのが教育です。この原則をはつきりさせるべきです。

習熟度でたいへん、少人数に矛盾が拡大とかい

いろいろあるけど、何をすればいいのかはつきり見えていないために暗い面ばかり出てきて、展望が見えてこない。今日は先の見えるような、みなさんのやっていることの意味が確認できるような問題提起をしていきたいと思います。元気は原則や見通しを身につけたときに出てくるのです。もう一つ、仲間どうし集団で学び合ったり支え合ったりすることで出てくるのです。

自治の力・自立の力

今私たちがいちばん子どもに身につけたい力は、何でしょう。自治の力、自立の力、この二つです。

子どもたちは人間として自立している力が持ちまされていません。自分で何をしていいか、将来何になりたいか生きていくために何がほしいか、わからないという子が多いのです。学力向上も大事だけど、人間として一人で生きていく力を育てるのが大事です。

ところが、自立する力は一人では育ちません。集団の中で、みんなできいろいろやってみるなかで可能になっていきます。人間はもともと共同して生きていくことを生活の基本に持っているのです。自立と自治の違いがわかりましたか、一分間テーブルごとに話し合ってください。

自立というのは、一人一人のことです。自治というのは、集団のことです。文科省は全部「ひとり、ひとり」といいます。今は個人責任で集団を問いません。自治といっしょになって人間を育てる、この教育をしなかつたら見通しがもてません。

自立と自治の力を育てるために何が必要か、最

初は「子どもの要求をしつかりつかむこと」です。子どもは何を求めているか、何を要求して学校にきているかをつかむことは大事なことです。子どもは必ず要求をもっています。零歳の子でも泣いて要求します。おなかがいっぱい泣く子におっぱいをあげると、豊かに育ちます。

子どもの要求

①安心 安心して学校に来られる、勉強できることです。授業の時安心させる先生は少ないですよ。「宿題やってきたかな。忘れたらどうなるかわかっているね。明るくいこう」と言ってもいいかもしれません。遅刻してきたとき、「またおまえか、三回目だ」とか言って「どうしたの」ってきいてやる先生も少ないです。教師は一生懸命やっているけど、子どもの要求にこたえていないことが多いです。零点の子に答案返すとき、「零点だけど、このごろ授業中話しているね、まじめさがあればのりこえられるから、間違つたところを繰り返し覚えてごらん」と言えればいいですね。

②対話 対話が足りません。話し合ったり対話することです。みなさんもここで話を聞くだけでは緊張がほぐれませんね。

③遊び 遊ばなかつたらだめですよ。遊んで、そのなかで良いところを見つけて、たりないところを見つけて補ってあげるので。

④友だち 友だちができなかつたら不安です。

⑤できること 成績以外のことで、あれができた、これができた、と一つ一つ確認することが大事です。

⑥わかる 最も大事なことです。授業が、ではな

く、自分がどんなに大事なものか値打ちがわかる、ということ。どんないい点があり、生きる値打ちがあることをわからせる必要があります。「君がこれやってくれたからよくなったよ。クラスが進歩したよ。大きな声で笑ってくれて雰囲気よくなったよ」と、そんなことでも存在意義があるんだとわからせないといけません。子どもの自殺は多いし、自傷行為も増えています。自分に希望がもてないからです。「将来何になりたい?」と聞いても、「わかりません」「いいところあるじゃないか」と言っても、「頭悪いし、だめです」「遺伝です」とこたえます。文科省のバックにいる学者が、能力遺伝説を言っていて、それが習熟度別授業に出てきています。子どもの要求と違うことがどんどん出てきていることを見つめ直し、要求を満たすための取り組みをしましょう。

「話し合う」こと、しながら何をしたいかを「活動」させる、そうして要求を「実現」させた時に、自立の力も高まるし、自治の力も高まります。これが原則と見通しです。

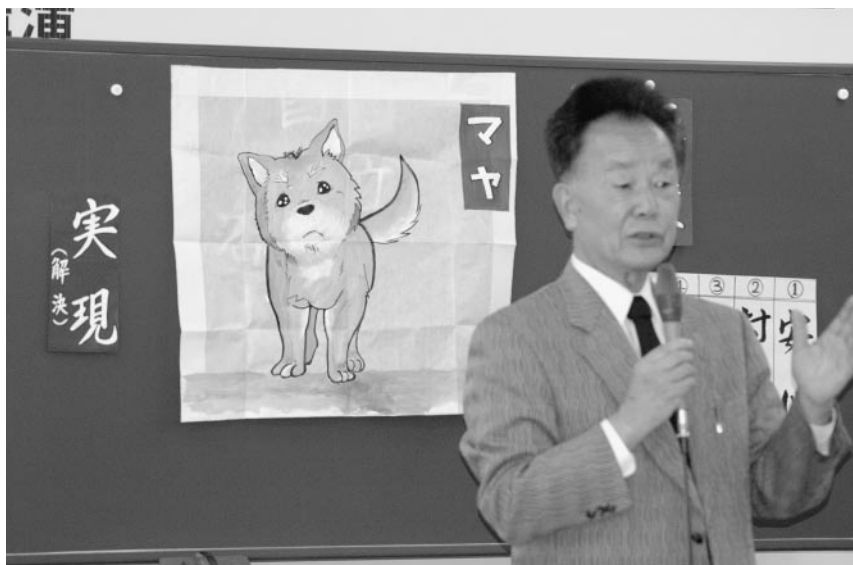
どんなことを言ったら子どもは安心できるか。低学年の子には「先生は大好きだよ」がいいですね。中高学年は「だれでもいい点があるのだから、認め合っていこう」、中学生には「人間にみずは無い。だれにも輝かしい値打ちがある」こう言うことは大事です。

若い長野の臨時採用の先生が学級通信に、「みんなが大好き、みんなを大切に」と書いていたら、保護者が喜んでくれた。中学校では、忙しいけれど生徒の誕生日に「生まれてよかったことを伝えたい」という思いで、バラの花をプレゼントして



いる先生がいます。必ず親から電話をもらおうそうです。安心とは、「自分が大事にされること」じゃないですか。

このカードも、ある先生が子どもに渡している誕生日のカードです。「友だちがふえたね」など勉強以外のことが書いてあって、黄色いテープがはってあります。これは何でしょうか。話し合ってください。



これは一年で伸びた身長です。忙しくてもやることはあります。そして子どもも元気をくれるのだから、こういうものをつくりあげるべきだと思います。

「対話」を通して「遊び」、「友だち」ができます。アイデアをもってください。たとえば、低学年ではこういうのはどうでしょうか。(マヤの絵を示して) どういう感じがするか、みんなで話し合います。話し合うという体験をさせるのです。実

際にやってみましょう。まず、班を作ってください。そして、班長を決めましょう。班長は、若いと思う人です。はじめに自己紹介してください。明るくやってくださいね。

きっかけを作ってやるには、班が必要です。互いに学び合う関係ができます。そして、明るく提案しなくてはだめですよ。班長さん、手をあげてください。拍手をしましょう！(拍手)

前の人と同じことを言わないこと、と言うと自分の意見を言うのが苦手な子もできてきます。今は「放任」という虐待があります。親からみただけからも教えてもらわない子、勉強は塾、運動はスポーツクラブ、食事はコンビニで対話がありません。一日中しゃべらない子、表現できない子がいます。発表できても、言い合いができません。

つぎは「メロンがいいか、トマトがいいか」議論しましょう。体験すると子どもにすぐできます。すこしレベルを上げましょう。これは船です。川を渡っていて途中で穴があいて荷物の「ゆめ」「お金」「友だち」「勉強」「遊び」のどれかを捨てなければいけません。いちばん先に捨てる荷物はどれですか。

盛り上がっていますね。これは理由を言わせるのが大事なのです。なぜかと考えることができます。今日は、学級の問題についても話し合いができます。今日は、二つ残すとすればどれかも話し合ってください。



これについては、「先生は、ゆめと友だちだ。先生の夢は…」と先生の思いを語ることが大事です。子どもは聞きたがっていると思います。



「ゆめ」と「友だち」がほしい、そこからどんなクラスにしたいかという話し合いができてきます。

●しあわせのハイタッチ

つぎに紹介したいのがしあわせのハイタッチです。「おはよう」も「さようなら」も、からだを通して、遊びを通して励まし合うのです。やってみましょう。「やめ」と言うまでに、七人の人として

ください。

片手もいいけど、両手ハイタッチもいいですよ。やってみましょう。家庭でもしてみるといいですよ。相手の気分もわかります。遊びですが、遊びながら気持ちも伝わるのです。

班長さん、右手を出してください。ほかの人は手を重ねていってください。私が今から言う話の中で「おじいさん」と言ったら、下の人がたたく、みんなは逃げます。

これはただ遊ばせるだけでなく、自立や自治の課題を見つけ出すものです。今の子どもはなかなか手を出さないうえです。そっとたたく子は自信がない、やたら激しくたたく子は何かうらみをもっているとかがあるかもしれない。

つぎは、まだたいていない人が、七十cm上から「五」といったらたいてください。「二、三、六、五」

これはたたく方が被害を受けることになっていきます。七十cmというのはいろいろやってみて、出した高さです。三分でいいから遊ばせて、「大きい声で元気にできたね。仲よくできたね」と子どもをほめてやればいいのです。

●班ジャンケン

班を生かしてダイナミックにやりましょう。この班が相手です。三回、何を出すか作戦会議をしてください。

ではみなさん立ってください。負けた班はすわります。どの班が残るでしょうか。

◆ 立っている班が勝ちです。拍手しましょう。(拍



手)

話し合って、心を伝える、自治の力の基本です。むずかしいことではありません。ただ、遊びといっても球技では伝わりません。いいのは「すもう」です。体をぶつけあって知り合っていると、どうしてこうなのか、理解できます。

◆ 「すもう」は十種類あります。みつけましょう。

答は、指・腕・突き・尻・けんけん・押し出

す・ひもで・棒で・立って・ひざだけで、の十種類です。

今の学生は指すもうのやりかたを知りません。勝負は十かぞえるまでです。骨が折れますからね。勝つ人はずるい人です。素直ではダメです。ずるいと言っても罪ではないです。コツ、要領というもので、生きる力となる学力です。いっぱい遊ばせて役立ててください。そのなかで大事なことは、「三分だけ」とか、「約束事」をつくることです。そして、「こんな進歩があった」と、子どもに自信をもたせてください。成績競争で子どもに自信がつかないのです。学級や全校の子どもも集団作りの中で自信がつく、と言っています。

◆資料

坂本光男著

『やっぱり学級はだいじだね——個人をのばし学級集団を高める方法』より

「学級は、子どもたちの学校生活のよりどころです。この生活土台がしっかりつくられなければ、授業も生活指導も充実させることはできません。

今日の教育政策がいちじるしく成績主義に傾いている今、学級その値打ちを生かす取り組みがとりわけ重要になっています。この本はその課題に応えるべく、学級の一人ひとりと集団を高める

55分を耳の中におく

だれもが人間としてほめてもらっていないですね。こんなものを作ってほしいのです。みんないい点があります。発見し合っていこうというものです。「○○くん ①手抜きしないで走る ②後かたづけができる」これを紙に書いてはるのです。「これと勉強と関係あるか」と聞く子がいましたが、自信がもてるとうる気になります。学力が伸びないのは学び合いをしていないからで、習熟度別授業などんでもありません。劣等感や不安をもつだけです。互いの良い点を見つけて書いて貼ってあげてください。保護者も子どもも喜ぶますよ。みなさんもやってみましょう。一人に四人の人が

方法とすじ道を述べたものです。(まえがき)

存在が認められたとき

みんなから自分の存在が認められることは、誰にとつても嬉しいことです。「またがんばるぞ」と、希望と勇気をわかします。ですから学級集団(みんな)が、その一人をどう認めるかが重要だと思

良い点を言ってあげてください。「声がいい、朗読にむいている」とか教育にかかわって言ってあげるといいですよ。教師もほめてもらっていませんから。見つけ合ったことが、おみやげになります。

今日は参加者がこんなに多いと思いますでした。若い人も来ていますね。市教組が力を出してください。若いうちから、京都も変わっていきます。学級作りについては、私の本『やっぱり学級はだいじだね』を読んでください。読みやすいと思います。これ以上やさしく書けません。ぜひ力をつけて、がんばってください。今日は呼んでいただいていたいへん光栄です。

います。

そこで私は、先生たちにいつも提案しているのです。

「友だちのよいところ探しをやり、教室にそれを貼り出すといいですよ」と。

これは、必ずよい結果を生みます。ぜひ実践してみてくださいと思います。

やりかたは、そうむずかしくはありません。班ごとに、一人について他の者が「よい点、がんばった点」を見つけ出して言ってあげるのです。教師はそれをいっしょに見て、おもな三つを紙（B4判）に書いて教室に貼り出すのです。一学期に一回くらいずつやると、子どもたちの表情が明るくなってきます。なかには「先生にほめられたのより嬉しい」という子もいます。級友たちは誰よりも日々のことをよく知っているからです。



〔例〕

- 〇〇くん
- ① マラソンで完走した
- ② 技術科、体育のとき、あと片づけをよくやっていた
- ③ 本を読む声が大きくなった

- 〇〇さん
- ① 友だちが増えて明るくなった
- ② 教室の花に水をやるのを忘れない
- ③ 質問するといやがらずに教えてくれる

小さな話し合いから討論・討議を育てよう

〔資料〕

1. トマトとメロン（小低向）

やりかたは「トマトがいい」という子どもたちと「メロンがいい」という子どもたちに分け、両者を向き合わせます。そして一方が言ったら、つぎは相手が言う。それを交互にやりながら、言い合い（論争）をさせるわけです。

もちろん内容よりも、主張することを重視します。ですから主張しやすいように、小グループでの話し合う時間をとってやり、そのうえで再開・続行するようにします。そして最終段階では、教師が、「では両方とも仲よくするにはどうしたらよいでしょう」と問いかけて、子どもたちの意見を聞きながらまとめていくとよいのです。

2. 船があぶない！（小高・中学向）



この指導で気をつけなければならないのは、「どれをいちばんに捨てますか」という点です。「ゆめ」「お金」「友だち」「勉強」「遊び」から一つだけ、まず選ばせることです。そして手をあげさせ、最も人数の多いものを取りあげて賛成・反対の討論をさせる。そうしないと対立点がはっきりせず、ただ発表だけでおわってしまうのです。

3. 溪流に住む魚（中学向）

釣りの名人といわれるおじさんに教えてもらい

ました。溪流にすむ魚の話です。

イワナ・ヤマベと呼ばれる魚などは溪流の淵（ふち）に住んでいます。大雨が降るとたいへんです。いつべんに流れが激しくなり、何もしいでいると海まで流されてしまいます。ですから必死にその淵にとどまる努力をし、やがて流れが静

まるとまたそこで暮らすのだそうです。

さて魚は、どんな努力をして淵にとどまるのでしょうか。

これは、それぞれの考えを発表させ、疑問点・納得いかない点を追求し、真実・真相を明らかに

するための討論になります。

たとえば「川岸のくさむらにかくれている」という意見が出たら、「そのくらしいことでは流されてしまうのではないですか」と追求する。

これの正解は、「石を飲み込んで体を重くし、激流に耐えている」というものです。

坂本光男著

『学級づくり、総合的学習に役立つ集団遊び』より

おじいさん

①「三人ずつでグループをつくり、右手を出して重ねてください。手と手は、しっかりとついましよう。」と教師が誘う。

②「これから、先生が物語を話します。その中でおじいさん という言葉が出たら。いちばん下の人が上の手を叩いてください。上の人は逃げます。」順に交代でやる。

③物語は教師が適当に創作する。

(例) むかしむかしある所に、ねこ好きのおばあさんと、犬好きのおじいさんが(ここで叩

く)。おばあさんは、とてもやさしい人で、ねこも犬もかわいがりました。でもおじいさんは(ここで叩く)……というように続ける。

集団ジャンケン

(着眼点と評価)

・リーダーの指示のしかた、班での作戦のたて方が勝敗を大きく左右する。動作をつけるとますますそうなる。

・勝った班のすぐれた点を評価してやり、他班へ影響をひろげる。また、おくれた子への援助のしかたも教える。

(発展)

・班対抗のリーグ戦にしたり、班連合でやったりすると、自発性が高められてくる。
・学年集団として、学級対抗でやったりすると、スケールの大きなくみとなり、力も拡大される。

六月教研 幼年～一年分科会レポートより

きゅーしょくしつからごんにちは

「おいしいね」を発信して

仁和小学校分会 栄養職員 浅田光代

発行のきっかけ

北野天満宮の近く、上京の古い地域でお年寄りやお寺に守られ、元気に育った子ども達四百五十〇余人の給食づくりをしています。

給食室からのおたより「おいしいね」は、栄養職員の多くの仲間からのヒントをもらい、また健康教育の研究指定校になったことをきっかけに発行して四年目になります。

ねらいと方法

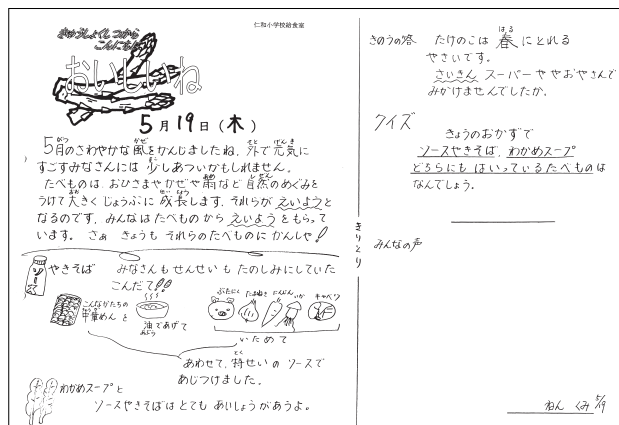
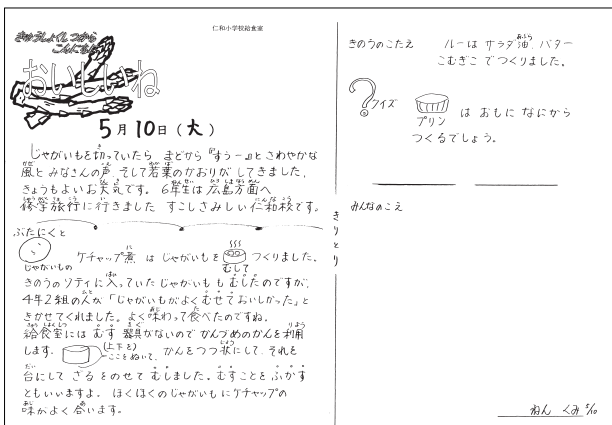
- ・ 給食に関心を持たせる
 - ・ 食べ物に興味を持たせる
 - ・ 食事と健康とのかかわりを知らせる
 - ・ 「食」への知識を身につけさせる
 - ・ 献立の感想を聞く
 - ・ 子ども達と給食室とのコミュニケーションをはかる
- などのねらいで、毎日教室へ届けています。参観

日には保護者の方には、給食週間には家庭へも配布しています。

内容

内容は肩ひじをはらず、子ども達に話しかけるような表現で、心がけて書いています。
 まず出だしは、「当日のお天気」から書きはじめます。それは誰でも共感できる話題ですし、食糧と天候は無関係ではないし、旬の食材や食文化などを伝えるのにも、よい方法ではないかと思っています。

そして献立の紹介です。リアルタイムなことを伝えたいので、前日から書くことはほとんどしません。
 「きょうのキャベツやきゅうりは滋賀県でとれたものですよ」
 「にんじんは遠い北海道からやってきました」
 「きょうのおかずの卵は四百五十個もつかいました」





シリーズ 街角の史跡⑮

向島の町名と 三宅安兵衛の碑

向島小学校分会
早川幸生

子どもたちの声から見えてくるもの

「きょうのじゃがいもはメーカーインですよ」
など、時にはカメラで食材を写したりすることも
あります。
そして「玉ねぎが茶色になるまでいためました
よ」
「ルーはバターと小麦粉をよくいためてつくり
ました」
「しょうがをかくし味にしてあるよ」
など調理の工夫も伝え、献立表からはわからない
ことを、調理員さんがていねいに仕上げる様子も
伝えます。

それに、子ども達からの声が給食室に届きやす
いように「クイズ」もあわせて載せるようにして
います。

各学級では、当番の子ども達や担任の先生が読
むなど様々ですが、いろいろな給食への、食への
声やクイズの答えとともに返ってきます。その一
部を紹介すると、

「ほこほことおいしい」「とうがながとろつとし
て」「チャプチェはごはんによく合います」「サク
ツと揚がっていました」「歯ごたえがおいしい」
「食べたらとってもしあわせです」とおいしさを言
葉で表します。また「春巻きがパリパリ」「もやし
と小松菜がシャキシャキ」「きくらげがコリコリ」
「こんにゃくがプリプリ」などの食感や音も伝えて
くれます。

それから「うちではこんなん作ってくれやらへ
ん」「大豆料理はほとんどでーへん」「学校と家の
カレーの味がちがう」など、家庭の食卓がうかが
えます。絵文字での返信など今の子ども達だなあ
と、実感したりもしています。

毎日書き続けることは、たいへんなこともあり
ますが、発行できない日には、「きょうは『おしい
いね』なかったの」などの声を調理員さん達にも
伝え、それらを励みに、また反省の材料にしてい
ます。

今後は校内LANなども使用し、さらに充実し
たおたよりになるよう発信していきたいです。

○町名しりとり

六年生の総合学習で向島の町名しりとりをしました。
自分の住んでいる町名を担当します。

秀吉の築城や町づくりに関するものも多くありまし
た。「本丸・二の丸・本町・丸町」などがそうで、秀吉
が築き、その後家康が数ヶ月居たとされる向島城に
因んだものです。

その他、当時を感じさせるものとして、学校のある
「善阿弥町」や武将が楽しんだであろう「鷹場町」、当
時、人々の信仰を集めた庚申塚に因んだ「庚申町」等
があげられます。

また、宇治川をはさんだ対岸との往来の必要から、
現在の宇治市隠元橋の所に、隠元の渡しがあった「渡

し場町」や、現在の観月橋（昔は、豊後橋）南詰の
「橋詰町」や、北詰の「豊後橋町」等は、その場の当時
の役割を表す町名といえそうです。

そして、宇治川の堤ができるまで大池と呼ばれた巨
椋池に並ぶように点在していた「上島」「下島」「椋島」
も、旧家の児童が持ってきてくれた古地図の中に、発
見することができました。

点々と続く三つの島を連結してきたのが、椋島堤
（まさしまづつみ）です。向島の北側の堤防沿いの道で
す。

そして当時の様子を目で見る資料として、都名所図
会や、宇治川兩岸一覽で、学校付近の様子や、宇治川、
伏見周辺の絵図を集めました。子どもたちに一番人気



だったのがこの一枚です。万延元年（一八六〇年）当時の両岸の様子と観月橋（豊後橋）や、今の向島小の当時の場所や様子が良くわかる、目で見る資料です。その後、地域の向寿会の方々との交流で、大阪から宇治黄檗の陸軍弾薬庫へ、蒸気船が火薬をはこんでいたことや、その船が、宇治川の流れに流され、観月橋の橋桁に、衝突したことなども知りました。子ども達にとっても、私達にとっても、地域のことを知ることには、活力になりました。

○三宅安兵衛父子の碑「伏見観月橋向島」

向島小学校の北門を入ると、小さな築山があります。その中央に二メートルを超す、大きな石碑がたっています。表には「伏見観月橋向島」の七文字。そして裏には「昭和三年 京都三宅安兵衛遺志建之」が刻まれています。



転勤して初出勤し駐車場に車を止めた時のことでした。「三宅安兵衛？ えっ、何で」実は、ほんの少し前に、京都の町をこよなく愛し、山科本願寺の土塁を守る運動や、御土居の研究や保存運動を市民と共に活動して下さっている中村武生氏にいただいた、一冊の学内研究報告集の別刷りで知った名前でした。京都の皆さんにぜひ知ってほしいので、少し紹介します。

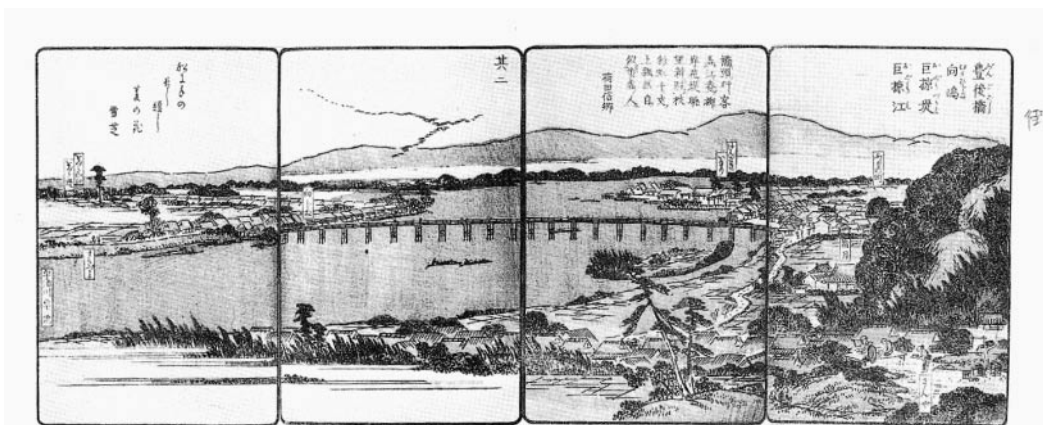
福井県小浜出身の三宅安兵衛は十一歳で京都の木綿商に奉公し、その後独立して博多織の店を構えました。事業に成功し、財をなしましたが、死に臨み息子清次郎に一万円を渡し遺言したそうです。

「此の金を予が死後、京都の為公利公益のことに使用せよ」と。

父安兵衛の死後、息子清次郎は自らも金を出し、大正十年、昭和五年の十年間に当時の金額で二万円（現在ではおよそ二億円）で京都府下一円に道標を四百余り建立したそうです。考古資料館前の「西陣」の碑もそうです。

しかし、詳細な建立位置が記されていないこともあり、中村氏の研究では、二〇〇一年十一月の時点で、二百三十七基とのことでした。それに加えて、交通事故での破損、道路改修等の移転や盗掘等の心配もあります。

向島小の碑のことを中村氏に伝えると、「一本でも多く見つかって良かったです。学校の中までは調査できなくて…。これからも、学校内での発見の可能性がありますね。」とのことでした。石碑や道標を見かけたら、ちよつと裏面を見て下さい。三宅安兵衛に会えるかもしれませんね。



私は今年、定年退職します。三十七年の教師生活のうち三十一年、障害児学級でした。身体も弱くあきつぱい性格の私が定年まで続けられた事、奇跡に近いなあと感無量です。なぜ続けられたか、私の思い出話につきあってください。

一、情緒育成学級の誕生

新卒四年目の事でした。まだ京都市に発達遅滞の養護学校がありませんでした。「就学猶予・就学免除をなくそう」という運動の中で、近くの養護施設から毎年複数の子どもが入級してきました。その年は、二十三名の子どもを担任二人で指導するという事態になりました(子どもは十四名で二学級という時代でした)。子ども達は、六歳〜十四歳。自傷行為、他傷行為のある子、すぐ校門から出て行く子(探しに出かけ、道はなんと多いものかと実感したことを思い出します)、おしめをしている子、排泄の介助の必要な子など、それぞれ個性あふれる、課題の多い子ども達でした。

「大変です。何とかして下さい」という私たち担任二人(相棒は新卒二年目)の声に、保護者の方、校内の先生方、担任会、組合の先生方が立ち上がって下さいました。署名活動に取り組んだり、三月の人事交渉の中で、徹夜で市教委と交渉したりしました。連日、保護者の方も、「先生を増やして下さい。」と、涙ながらに訴えられました。

校内の教員は校長をのぞいて全員(未組合員も含めて)交渉に来て下さった事を、今でも感謝しています。

そしてこの時、「情緒育成学級」が誕生し、三学級にする事ができたのです。

「一人ではできない事も、みんなで力を合わせればできる!」という事を新卒四年

③ シリーズ 教師として生きる

みんなで力を合わせる



常磐野小分会 岩谷たけ子

目で学びました。

二、「担任会」から「障害児教育を語る会」へ

「担任会」は障害児学級担任の集まりで、学年会のようなものでした。子ども達のこと、保護者のことなど、担任の悩みを話し合い、それを悩みだけに終わらせず、解決にまで持っていけるエネルギーのある会でした。そもそも市教委に、障害児教育に関わる専門の課がない時代から、先輩の諸先生方が作り育ててこられた会で、「私達が京都市の障害児教育を支えている」という自負を持っておられるパワーあふれる先生方がたくさんいらっしゃいました。

その流れをくみ、担任会では年三回、「三者懇」を持ち、担任・市教委・校長会の三者で話し合い、いろいろな問題を解決してきました。

「校区の学校になぜ行けないのですか?」「障害があるためになぜ遠くの学校に行かねばならないのですか?」

「近所の子と反対の方向に登校する我が子を見ると涙が出ます。」

との保護者の声を、三者懇の場でも担任から紹介し、一人でも障害のある子どもが校区にいれば障害児学級を設置してほしい、と訴えました。

その結果、一九九六年から「二人学級」が誕生し、九七年には一名でも学級が新設

されるようになりました。その後、学級児童数最小四名で二学級が実現するようになりました。

しかし、そのためには高い代償を払わなければならなかったのです。市教組障害児教育部の役員や、担任会の幹事が、次から次へと普通学級担任に異動になり、障害児学級を去らねばならなかったのです。そして六年前には担任会が突然なくなってしまい、校長主導の「育成学級協議会」が出現したのです。担任は悩みを言う場を失い、一人ぼっちになった気持ちに陥りました。

そこで何とか「みんなの悩み、みんなの解決」してきた担任会の精神を受け継いでいこうと、「障害児教育を語る会」を仲間と共に立ち上げました。私も月一回、悩みを語り教育実践を交流しながら、元気をもらっています。もともととたくさんの人がこの会に来て元気になってほしいと願っています。

三、学級通信

私は新採以来、できるだけ毎日学級通信を出すようにしています。一人ひとりの子ども達の様子だけでなく、子ども達同士の関わりをみんなに知ってもらいたいという思いからです。保護者の方には、

「学級の子ども達みんなを、我が子と同じように思ってください。二つの目で見ると、保護者全員の八つの目で見るとよく目が行き届きます。そのために、子ども達が今かか

えている課題をみんなでも共有しましょう。その課題ができたとき、みんなが喜べたらどんなにすばらしいでしょう。毎日出す学級通信には、良い事、悪い事、すべて書きます。」と告げ、了解を得ました。

また、学校全体で子ども達を育ててもらうために、学級通信を全教職員に配ることにしています。管理用務員さんが、

「○○ちゃん、今日、おはようってあいさつしてくれましたよ。」

とか、給食調理員さんが、

「○○ちゃん、今日、給食室をのぞきに来てくれたよ。」

などの報告が入り、お誕生日には、

「おめでとー、○○ちゃん。」

とみんなから声がかかります。この学級通信は、教職員の方が「学級の子ども達を自分たちで育てている」という意識を持って下さる大きな力になっていると思います。私の力なんて微々たるものです。全教職員の力をかりて子ども達は育つのです。いつもいつも感謝です。

このように、学級通信は私の教育実践の核であり、保護者や教職員の方々をつなぐ心のかけ橋になっていくのです。前述の情緒育成学級開設運動で団結できたのは、この学級通信が大きな力になっていたのだと思います。

ここ数年、学級通信は進化し、紙面の半分は保護者の方の掲示板になりました。毎日の連絡帳に記された保護者の方の思いを載せ、

残りの部分に私が学級の出来事を書く、という形式です。一人の保護者が落ち込まれると、他の保護者が経験談を書きなぐさめる、という事もあり、名実共に担任と保護者の方との共同作業の学級通信になりました。私も保護者の方々の日々の大変さがよくわかり、過去、保護者の方に何という冷たい言葉を投げかけてきたのだろう、と反省の日々です。

四、みんなの力を合わせる

最近、人と人との関係が希薄になっていきます。子ども達同士、保護者同士、教職員同士がバラバラになってしまいがちです。

そんな中、学級通信を軸に、子ども達のために、私を支えて下さっている人達にかまわれ、子ども達の成長をみんな喜び合える事は、本当に幸せです。

「障害児学級担任は全校の『ひまわり』にならなければならぬ。いつも輝いていなければならぬ。」という先輩の言葉を胸に過ごした三十七年間でした。

「要求を自分で言えない子ども達のために、しんどくても子ども達の声を代弁しなければならぬ。」という思いで過ごした三十七年間でした。

みなさん、これからますます教育現場は厳しくなると思います。竹のようになやかな心を持って教育実践して下さい。

仲間と共に！

平和教育の取り組み

沖縄修学旅行の実践

高雄中学校分会 小釜一宏

二〇〇三年、同じ右京区の太秦中学校が沖縄への修学旅行を先行試行実施しました。塾が一緒の生徒などから私たちが沖縄へ行きたいとの声が上がりが始めたのを契機として、保護者アンケートの実施など、手続きを踏まえつつ二〇〇五年修学旅行を「沖縄」に決定しました。生徒数が十六名という少人数ならではの利点を最大限生かしつつ、憲法九条の平和条項の変更が狙われている今、地上戦が展開された沖縄をどう捉え、いかに平和学習を進めるかということ、現在に生きる子どもたちの特性と、総合的な学習の趣旨を踏まえつつ取り組んだ「沖縄」修学旅行の取り組みを報告したいと思います。

●一年 総合的な学習

- 二〇〇四年一月十三日
- 二〇〇五年度修学旅行に向けた取り組みをスタートさせます。
- 五限：清ら島沖縄（三〇分）、東村やま学校うみ学校（二〇分）視聴
- 六限：修学旅行第二日目行程計画立案調査

※五限は私たちが沖縄に修学旅行に行くことを決定したところ、財団法人沖縄協会より送られた修学旅行で沖縄を訪れる学校に最初の学習として見てほしいのメッセージのこめられた「清ら島沖縄」と一泊目の東村での様子がまとめられた「東村やま学校うみ学校」のビデオを視聴して、沖縄に修学旅行として行くことの概要と意義を学習。

※六限は東村での滞在を終え、二泊目の宿泊地である那覇までの選択性グループ研修のコースの行程・計画調査活動を行うための段取りを説明。

- 一月二十一日
- 三・四限：先週抽選した①⑫のコースについて調べ、冊子用レポートを作成。
- 二月二日

行程について

●第1日目…4月19日(火)

	阪急	モノレール	JAL	
	2083		那覇空港	
四條大宮集合	南茨城	伊丹空港	那覇空港	
7:40頃	9:00頃	10:10頃	12:25頃	13:00
観光バス	観光バス	観光バス		
轟の塚	ひめゆり平和記念館	東村→民家5軒に分宿		
13:45	14:45	15:00	16:00頃	18:00頃

●第2日目…4月20日(水)

徒歩	タクシー	タクシー	徒歩
半日東村体験学習	東村	体験希別別タクシー研修	那覇
	13:00		18:00頃
一ステキハウス（キャプテンズ）	徒歩	国際通りウィンドウショッピング	
19:00頃		20:00頃	
徒歩	宿舎		
	21:00頃		

●第3日目…4月21日(木)

タクシー	タクシー	徒歩	モノレール
宿舎	首里城公園	国際通り自主研修	牧志
8:30	9:00	10:00	10:30
			12:15
			12:30
	JAL	モノレール	バス
	2084	伊丹空港	自宅最寄バス停
12:50	13:50頃	15:40頃	16:30
			18:00頃

●二年 総合的な学習

六月八日
NHKそのとき歴史が動いた『沖縄戦』を見る。

調べたことについてのプレゼンテーション。

六月二十二日

『さとうきび畑の唄』を見る。

沖繩をとことん調べる

六月二十二日・二十八日（京都市立中央図書館）
七月六日

※テーマ・・「言葉」「習慣」「風習」「気候」「沖繩戦」「米軍基地」「食べ物」「沖繩の墓」「お土産」「地名の由来」「作物」「交通」「訪れる地・東村・那覇」など、自分の興味・関心に基づいて
十二月二日
沖繩戦語り部『海江田さん』より沖繩戦についての学習

二〇〇五年一月十八日

五限・二〇〇三年度山城高校文化祭演劇の部第一位『ひめゆりの塔』三〇分。『沖繩の文化』七分

六限・修学旅行沖繩事前学習の準備

※（よびかけ）私たちの修学旅行が後数ヶ月後に迫ってきました。とくに君たちはその計画段階で第一日目の宿泊場所として、リゾートホテルではなく一般の家庭への民泊を選択しました。そこには沖繩の「正」の部分ではなく「負」の部分を持ち合わせた家庭もあることでしょう。また、現地での体験学習などで多くの沖繩の方々や触れ合うことになることと思います。こうした予想されることから、単に楽しく過ごせればよいという修学旅行ではありません。これからの二ヶ月余りの間に集中して、現地「沖繩」の地理、歴史、産業、文化などの基本的なことをしっかりと学習しておく必要があります。特に俗な言い方もおしれませんが、本土の人間として、沖繩に対する「平和」

感覚を磨く必要があります。

☆事前学習課題その一

◇琉球時代の沖繩

◇沖繩戦・・具体的課題

①沖繩が戦争に巻き込まれるときの太平洋戦争がどんな状況であったか。

②住民の側から沖繩戦の実態はどんなものであったか。

③沖繩戦の中で、当時の中学生・高校生の生徒たちはどうだったか。

④戦争の終結はどうであったか。

◇終戦後の沖繩（アメリカ軍占領下）

①アメリカ軍占領下の中で住民の生活はどんなものであったか。

②アメリカ軍占領下での基地の拡大はなぜか。

③祖国復帰運動とは何か。

◇今の沖繩

①復帰後の基地の現状は

②アメリカ軍基地は縮小されたか。

③アメリカ軍人による犯罪の実態は

など自分たちで学習課題を決めて時間内に作成する

☆事前学習課題その二

◇環境 ◇文化・伝統 ◇生活 ◇地理・産業

◇生物・自然 ◇方言 ◇「東村」「那覇」とは

など。

実践を通して

一年より取り組みをスタート。一年三学期に第

二日目の「希望別研修」の目的地と研修内容についてのレポート作成・報告。二年生夏休みの課題として、ネット利用でなく京都市中央図書館を利用しての書物からの「沖繩」学習（レポート作成）。二年三学期前半にて「平和」学習のレポート作成・報告と続き、三学期後半から「しおり」「旅行ガイド」作成と子どもたちが修学旅行で訪れる沖繩について学習を行ってきた。十六名という小集団ゆえに実践できたことも多々あるが、旅行そのものをその主体である生徒たちとともに計画し、生徒の希望に沿った旅行にすることで自らの課題としてとらえながら学習してきた生徒の姿を随所に見ることができたと思う。

第一日目の南部戦跡めぐりでは『轟の壕』の真っ暗闇の体験。また、特に東村農家民泊はよい体験になったようで、その一面のバイナツプル畑や石がない赤土の農園で裸足での農作業。夕食や夜食をホームステイ先の方と一緒に作ったり、中には戦争体験をじっくり聞かせてもらったグループもあったりして、さまざま貴重な体験をすることができたとの感想があった。第二日目の夕食を宿舎ではなく沖繩に沢山あるステーキハウスでとったこと、最終日の昼食を公設市場でとったこと、など従来にはない修学旅行となったと思っっている。

九月下旬、子どもたちは文化祭にて演じる『ひめゆりの塔』の台本を手に、十月四日の本番に向けて練習の日々を送っている。この三年間の取り組みの最後としての劇のせりふに、どのような工夫と言葉を残してくれるのかを楽しみに、子どもたちとともに歩んでいる今日この頃である。

ぼちぼちながら
確かに存在する久世西小分会

久世西小学校分会 赤阪咲恵

私が久世西小学校に転動してきたのは六年前。その六年間に、フリーの教職員が増えてきました。転動した年、フリー教員は、算数のTTの先生と教務主任だけでした。

二年目に、一人学級でしたが、育成学級が誕生し、学級数がふえたため、図工の専科が生まれました。四年目に私は二年生を担任。その年に始まった「学びのサポーター」として来た、大学卒業したての青年に子どもたちは大喜びでした。

そして、五年目六年目と、私は、初めて理科のTT（フリー教員）を経験しています。

六年間を振り返ってみると、ずいぶん教職員の数が増えました。今年、フリー教員は、理科TT、算数TT、少人数加配、そして教務主任の四人です。一年生には四名の「学びのサポーター」。六年生には図工の専科を担当するスクールサポーター。

先日、久世西小二年目の教頭先生が「六年前からの不登校の人数を調べてみたのですが、六年前はびっくりするほど多かったです。それと比べると今はとても少なくなっていますね。」

と言われました。私は、その発言に続いて、六年前からの人的教育条件の充実が不登校児童の減少の大きな要因だと思うという旨を発言しました。

私自身、四年から六年という学校の半分の子どもたちと、「理科の授業」を通して接し、授業で充実感が得られると子どもたちにより落ち着いてくれることを実感しています。

以上の前進は、組合の要求実現のたたかいの成果が大きいと思っています。

さて、久世西小学校の分会員は十四名。「分会会議開きます」とメモを机上においておくだけで集まってくれる心強い仲間です。お茶とお菓子をいただきながら、六月末に職場要求を話し合いました。久世西小学校では教室が足りません。一人が始まった育成学級は今六人で二学級にもかわらず、一教室です。図工室が今は使えません。将来、キリンビール跡地利用で大幅児童数増加が見込まれますから、教室や校舎問題は一番大きいのです。あと、三年生と四年生が四クラスから三クラスに減り、四〇人に限りなく近い学級人数です。この件に関し

ては、三月に四日間で一〇〇筆以上の署名を集めてくださった保護者パワーがあったのですが、残念ながら…。やはり、三五人学級、三〇人学級。早く実現してほしいですね。

久世西小学校の分会は、励まし合い支え合うあたたかい仲間の集まりです。これは伝統的です。今年は、分会長が分会ニュースを発行してくれていて、楽しみにしています。

ぼちぼちでも確かに存在する久世西小分会です。

